



ほけんだより 7月号

令和2年7月1日
ちいさな杜の保育園
看護師 山口友恵

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。普段からの外遊びで体を鍛え、喉がかわいていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。園では、環境省から配信されている暑さ指数をチェックしながら、外遊びを行っていきたいと思います。

夏に多い感染症

ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をして医師の診断を受けましょう。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水疱、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1～4日くらいで解熱します。



咽頭結膜熱（プール熱）

アデノウイルスによる感染症で、プールで感染することが多いのが特徴です。高熱が3～5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化のよい物を食べましょう。



手足口病

手の平、足の裏、口の中を中心に水疱ができ、発熱することもあります。食事は喉越しのよい物を食べましょう。



流行性角結膜炎（はやり目）

アデノウイルスによる感染症で、目が腫れ、充血し、多くの目やにや涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。

水分補給

大人の体は7割近くが水分です。乳幼児はさらにその割合が増え、生まれたばかりの乳児だと、なんと8割近くになります。その分、失われる水分量も多く、こまめな水分補給が必要になります。

Q & A

●いつ飲ませればいいのか？

起床時、就寝前、運動の前後、入浴前後など、汗をかく前と後に飲ませるのがよいでしょう。

●どのくらいの量がよい？

一度に大量を与えるのは避け、コップ1杯程度の量をこまめに与えましょう。

●何を飲ませればよい？

病気にかかっていなければ白湯や麦茶などがよいでしょう。糖分の多いジュースや、消化に時間のかかる牛乳、硬度の高いミネラルウォーターは、水分補給という点ではあまり適しません。失われた電解質を補充する時は、経口補水液が役立ちます。

乳児への水分補給

離乳食を始める準備ができるようになったら、スプーンを使って、白湯や麦茶などを少しずつ与えてみましょう。

